

ショートコメント vol.252 (2022年7月27日)

テーマ：直近の人流は「まん防適用」並みの水準で推移
～今後のさらなる減少余地は限定的～

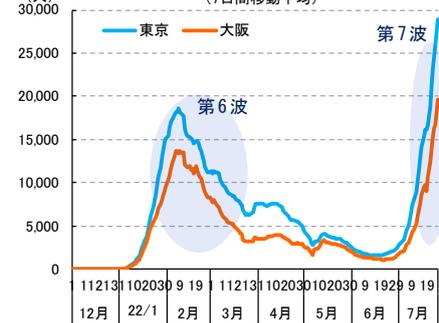
●感染第7波の発生

新型コロナの感染が急拡大し、新規感染者数は各地で過去最多を記録（図表1）。関西でも大阪をはじめ、すべての府県が過去最多となった。

現時点で政府に行動制限等を行う意思はなく、医療体制等への影響を注視する姿勢を保っている。実質的にウィズコロナの方針を示した形になるが、先行きは不透明である。重症者の急増は免れたとしても、中等症者が増えることで病床使用率の上昇が続けば、いずれは何らかの対応が必要となる。

大阪の病床使用率は、現時点で50%をわずかに下回る水準であり、予断はまったく許されない。

【図表1】 新型コロナの新規感染者数の推移
(7日間移動平均)



(出所) 東京都、大阪府ホームページ

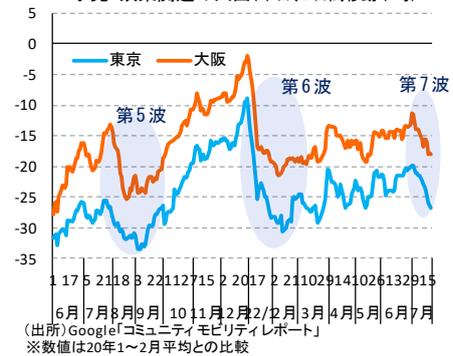
●東京、大阪の人流の推移

そういった中、急激な感染拡大を受けて、人流の減少が進んでいる。米 Google 社が公表している位置データを元に、平日の小売関連 (retail and recreation) の人流をみると、7月に入って減少傾向が進んだことが分かる（図表2）。

図表は東京と大阪の動きを示しているが、両地域ともにほぼ同じタイミングで、同じように減少が進んでいる。ただ、急激に感染者数が増えた割には、人流の変化は緩やかなものにとどまる。

特に前回の感染第6波の際は、大幅な減少が進んだのに比べると、まだ第7波が発生したばかりとはいえ、動きの緩慢が目立つ。

【図表2】 小売・娯楽関連の人出(平日、7日間移動平均)



(出所) Google「コミュニティモビリティレポート」
※数値は20年1～2月平均との比較

●今回の人流の特徴

この緩慢さについては、第7波が始まる前の動きに起因する。図表2をみると、感染が比較的収まっていた4～6月にも、人流は大きく増えていない。過去のサイクルでは、感染の拡大期には人流が減り、収束期には増えるという動きが続いてきた。今回は4～6月にほとんど増えなかった結果、第7波が始まってからの減少も限定的になったとみられる。

4～6月に人流が戻らなかった要因は、各地で一定の感染が続いたことが大きい。大阪でも1日あたり1000人規模の感染が続いたことで、密を避ける動きも続く形となり、都心部を中心に人出の戻りが遅れた。特に、シニアを中心に外出の自粛傾向が続いたとみられる。

●今後の注目点

ここで改めて7月以降の人流の推移をみると、減少の動きは緩慢であるものの、減少率としてはすでに一定の水準に達する。上の図表2をみると、直近はコロナ前の18%減と、前回の感染第6波でいえば「ま

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

まん防」適用時の水準に相当する。

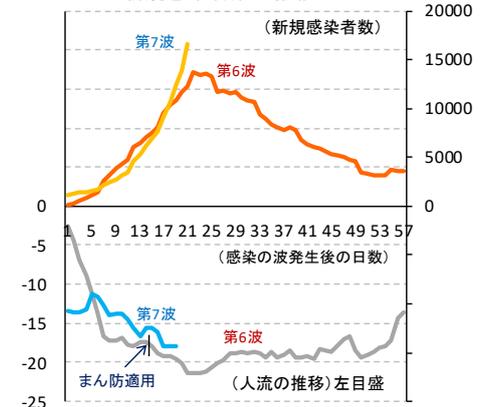
右の図表3は、感染第6波と第7波について、新規感染者数と人流の推移をみたものである。

人流の推移に関しては、スタート時の動きは異なるものの、徐々に似た動きとなっている。すでにふれたとおり、直近の動きは「まん防」適用並みの水準といえる。第6波の推移をみる限り、さらなる減少は限定的であるため、今回もすでに減少が限界に近いとの見方は必要ではないか。

消費者が感染状況を判断し、自主的に行動を規制する動きはかなり前から始まっている。今回も同様であり、実質的に「まん防」並みの人流抑制効果が得られつつある。

逆にいえば、今から人流の抑制を目的に「まん防」を適用しても効果が薄いことを意味する。その点には十分に注意する必要がある。

【図表3】 (大阪)小売・娯楽関連の人出と新規感染者数の推移



(出所) Google「コミュニティ モビリティレポート」、大阪府HP
※データは7日間移動平均

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。